

第3回 第3次日野市立図書館基本計画策定委員会

日時……平成29年10月29日（日）10：00～

場所……多摩平の森ふれあい館

出席者…委員10名（山口 金子 戸崎 大矢 小形 石川 小林 田代 岡元 飯倉）、
事務局4名、オブザーバー（㈱ぎょうせい2名）

配布資料確認

- ・資料1：第3次日野市立図書館基本計画策定に向けた課題のまとめ
- ・資料2：日野市立図書館基本計画／基本理念（案）
- ・資料3：職員ワークショップ報告書
- ・資料4：第3次日野市立図書館基本計画骨子・目次（案）

○事務局：資料1～4について説明。

1. 議題

（1）「計画策定に向けての課題のまとめ」「計画の基本理念」について

- ・基本理念の図が「意見とその対応」からなくなっているが、どうしてか。⇒（今、検討中のため）
- ・8つの図書館の連携を明確に出すことが大切だと感じる。今まで以上に8つを特徴づけるとなると、お互いが独立してやっていくイメージが強い。

（2）「職員ワークショップ実施報告書」について

- ・ワークショップを定期的に、継続して開催する必要があるのではないか。地域館ごとの取り組みだけではなく、各地域館の連携を進めるための場やワークショップの機会などを検討してもらいたい。
- ・中央図書館の連携先にはPlanTが掲載されているが、多摩平図書館には載っていない。立地からすると、中央図書館ではなく多摩平図書館に載せるべきではないのか。
- ・基本方針1の（1）市政図書室の機能の充実について、ワークショップの内容では、他の図書館と同列となってしまうと市政図書室の特徴がみえない。市政図書室の機能を前面に出せる書き方を。
- ・これまではヤングスタッフの拠点はいくつかの図書館を転々としていたが、ワークショップでは、高幡図書館に固定となっているようだ。今後、高幡図書館から移動する予定はないのか。⇒（ヤングスタッフは今回の計画では高幡図書館に固定する方向でいく。）

(3)「計画の骨子・目次(案)、計画に入れる内容」について

【図書館の現状の確認と把握】

○中央図書館のリニューアルについて

- ・中央図書館の2Fはとても静かで快適で、今のままにしてほしいと思うが、確かに利用者が少ない。あれだけの広いスペースを少人数で使うことは問題があるだろうとも思う。
- ・図書館内に、子ども専用のスペースを設けることは、スペースがないと難しいが、長期的にみると、子どもの時から本に親しむこと、高校生以上になった時にも本に親しむことに繋がるため、必要だと考える。
- ・ワンフロアで図書館を運営することはいいことである。親の目が届くし、子どもは親がいることがわかるから。しかし、あまりにも広くなりすぎるとそれも難しくなる。
- ・図書館内のバリアフリー、トイレの構造、授乳室などの配慮は必要だろう。
- ・喫茶スペースやイベント会場と調べものの場所のゾーニングがどうなるのかが気になる。イベント等の騒音に対する苦情が出ないかなと思う。
- ・喫茶スペースはおしゃれじゃないと人は来ないと思う。
- ・図書館は老若男女が集まるところとして身近な場所であり、子どもが多く年代に囲まれて公共性を学べる数少ない場所であると思う。子ども専用のスペースが出来たとしても、人とのかわりや本を大切にすることなどの公共性を自然に身につける場所であってほしい。

○各館の連携について

- ・各図書館での職員の異動はあるのか。⇒(定期的な異動に加え、日常的に中央図書館から各地域館に職員の応援を行い、カウンター業務などを行っている。)
- ・図書館間の本の物流や体制づくりも大事であるので、バランスが重要であると思う。予算に基づいた厳密な議論が必要。
- ・日野市立図書館全体で蔵書について共通の方針を持っている。予約への対応や、他の図書館に返却された本を戻すなど、図書館間の本の移動は毎日行っている。

【計画の構成や内容】

○重点施策の位置づけについて

- ・共通で基本のサービスを行い、その上で地域の各図書館のあり方を考える、という流れの方が良い。「地域特性を活かした地域館の取り組みの充実」の文章の前に基本のサービスについて書くべきではないか。
- ・図書館の総体としての情報を出した後に、地域館の情報を持ってくるほうが良いのではないか。
- ・第3章基本方針(1)～(5)と第5章の各施策の繋がりが分かりにくい。第4章の重点施策は後にしないか。
- ・他の部分でも重要項目が多いので、第4章で重点施策として抜き出すのはどうなのか。短期(子育て支援など)の施策、長期(地域館の取り組みなど)の施策の区別をして、第4章は最後に持ってくるべきでは。

○地域館の位置づけについて

- ・各図書館の記載並び順についても検討する必要がある。⇒(市政図書室・移動図書館・中央図

書館は地域館とは役割が異なることから後にし、中央図書館は各館のバックアップをする役割であることを示すため最後にした。並び順はこのままで、その理由がわかるように記載することを検討。)

- ・中央図書館が真ん中であって、他の図書館が周りを固めているが、市政図書室はそこは一線を画しているということが示せれば、特化した役割も分かりやすくなる。
- ・図書館同士の関係性を図にするとわかりやすくていいと思う。地図におとして表記してはどうか。
- ・各図書館での基本のサービスがしっかりしてきたからこそ、地域の特色を活かした地域館づくりが必要となってきたのだと考える。各地域館の関係をどう組み立てていくのかが、今回の計画の課題であると思う。
- ・場所によって地域特性が違うので、個別の図書館をどう構築していくのかが今後の課題となると思う。
- ・中央図書館の記載が最後なのは、日野市立図書館らしさが表れている。全域サービスをうたって地域館をつくり、最後に中央図書館をつくった日野市立図書館の歴史が表れていると思った。

○「地域の拠点」という表現について

- ・「地域の拠点」といえば、一般的には駅のこと。図書館を「地域の拠点」と言うなら、何か枕詞が必要ではないか。
- ・「地域の拠点」という示し方では限定されている感がある。「地域の拠点」というよりは、「情報の拠点」や「文化の拠点」などの言葉として入れるといいと思う。基本理念の「暮らしの中に」とリンクする言葉があると良い。
- ・「地域の拠点」に言葉をつけて限定的にしない方がいい。「暮らし」とか広いものに。高尚なものにすると人が遠ざかる。
- ・図書館としての「地域の拠点」のあり方を考えることが大事。公民館も「地域の拠点」と言われることもあるので、図書館はどのような「地域の拠点」となるのか、「地域の拠点」として何ができるのかを明確化することが大事。

○「すべての市民」へのサービスについて

- ・基本方針4「すべての市民に図書館サービスを提供します」はあたりまえのことではないか。今利用していない人をどう取り込んでいくのかを考えることが大切。
- ・「図書館の利用に障害がある方」という表示方法は大事だと感じる。障害者差別解消法も施行された。障害＝差別のようなイメージがつかないような書き方を。
- ・誰でも使えることも大事だが、図書館を使いたい人が使えるための方法が重要。

○その他の意見

- ・図書館を利用していない人に対する情報提供が必要。全館において、8館で行っている市民へのサービスの全てがわかるようにするべきだと考える。
- ・自分がヤングスタッフである立場としては、ヤングスタッフについても明記してもらって知名度のUPを図る計画づくりを望む。
- ・基本方針2の(2)講演会やビブリオバトル、おはなし会等のイベントの拡充について、全てを図書館職員が行うというのではなく、コーディネーターとしての役割の育成を明記するべき。
- ・基本方針4の(4)多様な利用者へのサービスの拡充の部分に、子育て世代を入れるべき。
- ・今回の計画の中には短期の計画と長期の計画があると思うが、5年間で各施策をどう進めていくかを表などで可視化することを望む。
- ・図書館利用への障害の内容としては、昼間に働いている人は利用しにくいといった時間的な制約も含まれると思う。ライフスタイルの変化にも対応するべき。銀行のようにネット対応なども視野に入れるべき。
- ・基本方針1(3)ボランティア活動の支援の部分は、活動への支援なのかボランティアをしている人への支援か。
- ・現在はボランティアとの関わりがあまりない。これから、子どもの読書にかかわる活動をしている方々との情報交換会を実施予定。図書館が、点在するものを結びつけ、よりよいものにする支援ができたらいと考えている。地域の高齢者の方による読み聞かせのような活動を通じて、特に高齢者の男性が子どもと関わる機会の創出に繋がれば、など。
- ・図書館に情報センターとしての機能を大切にしたい。どの図書館に聞いても同じ答えが出るように。地域の特色を出すことで、ここに行かなくてはわからないということが出てくるのではないかと。(⇒(行政職員として、例えば市内施設の申し込み方法などの質問に全ての職員が答えられることと、図書館職員として、例えば高幡図書館の職員に高幡不動尊のことを聞けば何でもわかること、とは分けて考えている。))
- ・委員の方々の、委員をしたことによる図書館への考え方の変化や、計画の5年間を見守っていくよという気持ちなどを、計画書内に記載してみるのはいかがでしょうか。

【図書館の今後の課題】

- ・この図書館はコレクションが凄い、などの特徴があるということを市民が意識できるような試みを今後も続けていって欲しいと思う。
- ・小学校でオリピックの調べ学習が始まっている。本を使って調べ学習をする子どもが増えていく。図書館と調べ学習との連携を進めてもらいたい。
- ・学校教育現場との図書館との情報共有を進める。
- ・いわゆる貧困の方々、入院されている方にも使っていただけるサービスを。ひまわり号の病院への横づけなど、日野市の現実をみながらやっていけないか。
- ・子どもの学習支援施設に何ができるか、など検討している。図書館の敷居を低くすることをめざしているが、まだまだやることはたくさんある。
- ・高幡図書館と多摩平図書館にヤングアダルト向けの図書が集まっていることが知られていない。その棚と中高生を繋ぐPRが必要。
- ・平山図書館のブラウジングコーナーでは、本を読まず新聞を読むか勉強する人しかいない。

せっかく本と距離が近いのに本に触れることがない。上の教室に通う人も図書館には立ち入らない。人の流れがあることは図書館としてのメリットであるので、それを利用すべき。

- ・高幡図書館はスペースが狭い。裏の土地を買い取って児童室にするなど考えてみては。

(4) 今後の日程について

○事務局：素案の案は事前送付する予定。次回 12 月 16 日（土）10 時～12 時、場所は中央図書館にて。

以上